

## 第2 令和3年度事業報告

### 1 第53回（令和3年度）総会概要

日時： 令和3年6月28日（月）14：00～15：30

方法： Zoom によるオンライン開催

出席： 80 大学 120 名

欠席： 13 大学

次第：

#### (1) 報告事項

##### ア 令和2年度事業報告

前会長館の都留文科大学が発行した、会報第52号4～9頁及び32～33頁の抜粋資料をもとに、令和2年度総会、会議、職員研修、出版及び令和2年度の会費不徴収の経緯について報告を行った。

##### イ HP委員会報告

会報第52号10頁の抜粋資料をもとに、委員会の構成、活動状況、ホームページの更新内容、ホームページ訪問件数等について報告を行った。

##### ウ 地区活動報告

会報第52号29～31頁の抜粋資料をもとに、地区活動報告について報告を行った。

##### エ 関係委員会等報告

会報第52号10～28頁の抜粋資料をもとに、関係委員会等報告について報告を行った。

##### オ 各種細則の一部変更について

総会資料（以下「資料」とする。）2～3頁により、令和2年度第2回拡大役員会において承認された役員選任手続細則 別表の役員ローテーション表の改正について報告があった。また、委員長館及び委員館である大阪市立大学と大阪府立大学が令和4年度の統合されることに伴うホームページ委員会設置細則の一部変更について、令和3年度第1回拡大役員会において承認され改正された旨報告があった。

##### カ 公立大学協会図書館協議会改革小委員会の現状と計画について

提案校のうち国際教養大学から資料4頁により、公立大学協会図書館協議会改革

小委員会の委員構成及び令和3年6月にオンライン開催した委員会において現状の確認と課題検討の優先順位について意見交換を行い、課題については、他団体との連携活動及び会長館業務の順に検討することとなった旨報告があった。併せて、今後は月1回程度オンラインにて委員会を開催し、課題の検討（7～9月）及び課題の整理（10月）を行い、第2回拡大役員会（12月）にて報告及び提案を行う予定としている旨報告があった。

## (2) 協議事項

### ア 公立大学協会図書館協議会入会大学について

資料5頁により、静岡県立農林環境専門職大学の入会について説明を行い、原案のとおり承認された。

### イ 役員を選出について

資料5～6頁により、今年度以降の役員の原案について説明を行い、原案のとおり承認された。説明の概要は以下のとおり。

- ・会長館は2期前の拡大役員会と総会で内定する。（令和4年度は愛知県立大学が内定済。）
- ・副会長館は令和4～5年度について滋賀県立大学に内定する。
- ・監事館は、令和4年度は金沢美術工芸大学と京都府立医科大学に内定する。
- ・ホームページ委員会は会長館が指名することとなっており、令和4～5年度については委員館数1減（大阪市立大学と大阪府立大学の統合による）で現委員館に依頼、内諾済み。

### ウ 関係委員会委員等の推薦について

資料7～8頁により、関係委員会等へ公立大学図書館を代表して、記載の大学及び個人の派遣について説明を行い、原案のとおり承認された。

### エ 令和2年度決算報告・監査報告について

資料6～7頁により、決算報告・監査報告について説明を行い、原案のとおり承認された。

### オ 令和3年度事業計画（案）について

資料11～12頁により、委員会等活動、研修活動、渉外活動、地区活動、出版について説明を行い、事業計画は原案のとおり承認された。地区活動の概要は以下のとおり。

- ・地区活動

- ① 北海道・東北地区（秋田公立美術大学）  
令和3年度公立大学協会図書館協議会 北海道・東北地区館会議  
メールによる書面会議（8月～9月上旬予定）
- ② 関東・甲信越地区（東京都立産業技術大学院大学）  
令和3年度公立大学協会図書館協議会 関東・甲信越地区館会議  
開催時期及び開催方法について協議のうえ決定
- ③ 東海・北陸地区（情報科学芸術大学院大学）  
令和3年度公立大学協会図書館協議会 東海・北陸地区館会議  
開催時期及び開催方法については未定
- ④ 近畿地区（京都府立医科大学）  
令和3年度公立大学協会図書館協議会 近畿地区協議会総会  
開催時期及び開催方法については検討・協議のうえ決定
- ⑤ 中国・四国地区（新見公立大学）  
公立大学協会図書館協議会 中国・四国地区協議会総会  
メールによる書面会議（令和3年4月15日～22日）  
中国四国地区協議会研修会  
Web開催予定（令和3年9月～11月予定）
- ⑥ 九州地区（福岡女子大学）  
令和3年度第72回九州地区大学図書館協議会公立大学部会  
メールによる書面会議（令和3年4月12日～23日）参加館：15館

カ 令和3年度予算（案）について

キ 公立大学協会図書館協議会会則の一部変更について（会長館）

令和3年度予算（案）と会則の一部変更については関連があるため、一括での取り扱い審議とした。

資料13頁及び資料14～15頁により、予算案と会則の一部変更について説明を行い、原案のとおり承認された。

予算案及び会則の一部変更の概要は以下のとおり。

- ・令和2年度と同様に、令和3年度においても、新型コロナウイルス感染症拡大による影響を受け、引き続き支出の縮小が見込まれるため、会費を徴収しないことを提案する。
- ・会則の一部変更は、前年度と同様に、附則に追加記載で対応する。
- ・予算（案）は、繰越金と雑収入を収入とし、支出は、総会、研修等の開催中止に伴い会議費や報償費や研修費は0円に、諸活動費は今後の回復を見込んで昨年度の予算額程度、負担金と事務費は前年度と同額に予算計上し、収入合計額から一般経費を除いたものを予備費として計上する。

ク 大学図書館職員長期研修および短期研修への派遣について

資料 16 頁により大学図書館職員長期研修および短期研修への派遣について説明があり、原案のとおり承認された。概要は以下のとおり。

- ・長期研修：今年度は、昨年度研修実施がなかったため、持ち越しとなっていた大阪市立大学および岡山県立大学を推薦済み。また、来年度については希望する大学がなかったことから該当なしとする。
- ・短期研修：例年補助金支給対象者の選定について協議を行っているが、本年度は旅費が発生しないweb による研修開催であるため該当なし。

## 2 会議及び各種委員会等活動

### (1) 公立大学協会図書館協議会 令和3年度役員会（熊本県立大学）

#### ア 第1回拡大役員会

日 時： 令和3年5月21日（金） 10時00分～11時5分

開催方法： Zoomによるオンライン会議

出 席： 25大学 38名（うち、役員館13大学）

欠 席： 1大学（うち、役員館1大学）

議 事：

#### <報告事項>

- ① 令和2年度事業報告
- ② HP委員会報告
- ③ 地区活動報告
- ④ 関係委員会等報告
- ⑤ 改革小委員会の現状と計画について
- ⑥ 公立大学協会図書館協議会役員選任手続細則の一部変更について
- ⑦ その他

#### <協議事項>

- ① 第53回総会の開催について
- ② 公立大学協会図書館協議会入会大学について
- ③ 役員を選出について
- ④ ホームページ委員会設置細則の一部変更について
- ⑤ 関係委員会委員等の推薦について
- ⑥ 令和2年度決算報告
- ⑦ 令和2年度監査報告
- ⑧ 令和3年度事業計画（案）について
- ⑨ 令和3年度予算（案）について
- ⑩ 公立大学協会図書館協議会会則の一部変更について
- ⑪ 大学図書館職員長期研修及び短期研修への派遣について
- ⑫ 令和4年度総会の開催について
- ⑬ その他

#### イ 第2回拡大役員会

期 間： 令和3年12月8日（水） 10:00～12:30

開催方法： Zoomによるオンライン会議

出 席： 24大学 35名（うち、役員館13大学）

欠 席：2 大学（うち、役員館 1 大学）

議 事：

<報告事項>

- ① 令和3年度事業報告
- ② HP委員会報告
- ③ 地区活動報告
- ④ 関係委員会等報告
- ⑤ 改革小委員会中間報告

<協議事項>

- ① 第54回（令和4年度）総会の開催について
- ② 国公私大図協著作権検討委員会の主査業務の受入と委員交代について
- ③ これからの学術情報システム構築検討委員会の委員交代について
- ④ 公立大学協会図書館協議会ウェブサイトのSSL対応について
- ⑤ 令和4年度以降の役員の選出について
- ⑥ 令和4年度の関係委員会委員等の推薦について

ウ 第2回拡大役員会の<協議事項>のうち、主な審議結果

(ア) 第54回(令和4年度)総会等日程(案)について

次期会長館の愛知県立大学から提出された資料により、令和4年度総会の開催日時及びオンラインでの開催について原案の通り承認された。

(イ) 国公私大図協著作権検討委員会の主査業務の受入と委員交代について

委員のうち、都留文科大学から提出された資料により、委員会より打診を受けている主査業務の説明及び委員の交代について検討していただきたい旨説明があった。

(ウ) これからの学術情報システム構築検討委員会委員の交代について

(イ)と同様に、委員館であるはこだて未来大学から提出された資料により、来年度以降の委員の交代について検討していただきたい旨説明があった。

(イ)、(ウ)について、会長館より地区代表館を通じて加盟館へ広く呼び掛けることとなった。

(エ) 公立大学協会図書館協議会ウェブサイトのSSL対応について

ホームページ委員会の委員長館から、資料により、ウェブサイトのSSL対応について説明があった。資料では無料版を提案することとしたが、有料版のほうが望ましいというご意見があれば検討し、その場合どの有料サービスを利用するかについ

てはホームページ委員会に一任いただきたいとの説明があり、承認された。

## (2) HP委員会（大阪市立大学）

## ア 委員館

- (ア) 委員長館（ホームページ管理）：大阪市立大学
- (イ) 委員館：東京都立大学、横浜市立大学、名古屋市立大学、大阪府立大学

## イ 概要

## (ア) 活動状況

ホームページのSSL対応についてメール審議を行い、第2回拡大役員会にSSL化の提案を行った。

## (イ) 主な更新内容

- 2021/04/01 会長就任挨拶
- 2021/04/28 加盟館限定（アンケート調査結果）
- 2021/05/19 会報 第51号（令和元年度）  
加盟館限定（令和2年度 総会・役員会資料・議事録）
- 2021/06/18 加盟館限定（令和3年度第1回拡大役員会資料）
- 2021/07/15 第53回（令和3年度）総会・拡大役員会開催のお知らせ  
新規入会大学のお知らせ
- 2021/09/27 加盟館概要
- 2022/01/15 加盟館限定（令和3年度第2回拡大役員会資料）
- 2022/01/18 会報 第52号（令和2年度）  
（随時） 規程集・加盟館概要・各加盟館の規程、年間スケジュールの更新など

## ウ 統計

Google Analyticsによる集計

期 間	: 2021/1/1-2021/12/31	(前年 2020/1/1-2020/12/31)
訪問数	: 7,637 件	(5,193 件)
ページビュー	: 30,251 ページ	(16,935 ページ)
平均滞在時間	: 1分40秒	(2分30秒)
平均閲覧ページ数	: 2.76 ページ	(3.26 ページ)

## エ ホームページのSSL対応

近年、セキュリティ対策としてWebサイトのSSL対応が求められており、信頼性の向上やなりすまし防止などの観点から、当協議会のホームページについても、対応が迫られていた。そこで、ホームページ委員会においてSSL導入についてメール審議を行った結果、第2回拡大役員会に提案を行うことになった。拡大役員会でSSL



導入は承認され、SSL 証明書の選択については、ホームページ委員会に一任されたため、その後、メール審議を行い、「さくらインターネットドメイン認証型 SSL サービス」（年間契約 990 円）の導入決定がなされた。

SSL 導入時期については、現レンタルサーバの契約期間と合わせるのが適切であることが判明したことから、現契約終了後の 2022 年 4 月の初めに SSL 対応作業を実施し、SSL 証明書の契約については、サーバのレンタル・保守と合わせて、2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日にすることとした。

(ア) 導入 SSL サーバ証明書

さくらインターネットドメイン認証型 SSL (認証局 JPRS)  
年額 990 円

(イ) 公立大学協会図書館協議会ホームページ SSL 導入作業

(円)

SSL 実装作業 (SSL 証明書契約手続き、サーバ設定変更作業)	
作業料	50,000
消費税	5,000
合計	55,000

(ウ) 2022 年公立大学協会図書館協議会ホームページ運用・保守

(円)

ホームページ運用・保守 (2022 年 4 月～2023 年 3 月)	
サーバ利用料 (年間)	4,762
ドメイン更新費用	1,715
SSL サーバ証明書 (年間) ※	990
レンタルサーバ更新代行費	3,000
保守業務 (月額 5,000 円×12 ヶ月)	60,000
小計	70,467
消費税	7,046
合計	77,513

※これまでの運用・保守年間費用に※SSL サーバ証明書の契約が追加される

(3) 国公立大学図書館協力委員会（横浜市立大学）

ア 構成

(ア) 委員長館

令和2年度 慶應義塾大学（令和2年8月1日～令和3年7月31日）

令和3年度 筑波大学（令和3年8月1日～令和4年7月31日）

(イ) 委員館（\*は常任幹事館）

a 国立大学 \*東京大学、\*筑波大学、京都大学、名古屋大学

b 公立大学 東京都立大学、\*横浜市立大学、\*大阪市立大学

c 私立大学 \*早稲田大学、\*慶應義塾大学、西南学院大学、成蹊大学、  
松山大学、國學院大學

イ 会議

(ア) 協力委員会

a 第90回国公立大学図書館協力委員会

日 時：令和3年7月16日（金）14時～15時45分

開催方法：Zoom

議 事：

[報告事項]

会務報告など

[協議事項]

- ・ 専門委員会主査について

専門委員会主査が原案のとおり承認された。

- ・ 改正著作権法第31条の運用等に係る課題（案）について

図書館団体、権利者団体と協議していくことが承認された。

また、今後の協議の過程については随時共有されることとした。

- ・ 次期委員長館の選出について

令和3年度委員長館は筑波大学に決定した。

- ・ 改正著作権法第31条に係る国立国会図書館との連携について

著作権法第31条の改正により、国立国会図書館において絶版等資料を利用者に直接送信できるようになることに関連し、国立国会図書館と大学図書館の連携について、次期委員長館である筑波大学と国立国会図書館との間で調整していくことが承認された。

b 第91回国公立大学図書館協力委員会

日 時：令和3年12月8日（水）13時30分～15時30分

開催方法：Zoom

議 事：

[報告事項]

会務報告など

[協議事項]

- ・2020年度決算（案）及び監査報告について  
決算及び監査報告が原案どおり承認された。
- ・2021年度予算（案）について  
予算案が原案のとおり承認された。
- ・国公立大学図書館協力委員会運営要綱諒解事項の改正について  
改正案が原案のとおり承認された。
- ・監事館の選出について  
委員館から國學院大學、委員館以外から東京海洋大学が推薦され、承認された。
- ・国公立大学図書館協力委員会と国立国会図書館との連携に係る検討会議の設置について標記会議の設置について承認された。

(イ) 常任幹事会・常任幹事館担当者打ち合わせ

a 2020年度第2回常任幹事館担当者打ち合わせ

日 時：令和3年6月22日（火）13時～15時

開催方法：Zoom

議 事：

- ・第90回国公立大学図書館協力委員会の開催について
- ・専門委員会会計監査について
- ・日本図書館協会大学図書館部会規程の改正について
- ・改正著作権法への対応について
- ・国公立大学図書館協力委員会 Web サイトのサーバ更新について

b 2020年度第2回常任幹事会

日 時：令和3年7月16日（金）13時～13時35分

開催方法：Zoom

議 事：

- ・第90回国公立大学図書館協力委員会の議事について
- ・図書館におけるアクセシブルな電子書籍サービスに関する検討会のためのヒアリングについて

c 2021年度第1回常任幹事館担当者打ち合わせ

日 時：令和3年11月17日（水）14時～16時

開催方法：Zoom

議 事：

- ・第91回国公立大学図書館協力委員会の開催について
- ・2020年度決算報告及び監査報告書（案）について
- ・2021年度予算案について
- ・2021年度監事館候補について
- ・国公立大学図書館協力委員会運営要綱諒解事項の改正について
- ・令和3年度国立国会図書館長と大学図書館長との懇談会について
- ・国立国会図書館による入手困難資料の個人送信に関する協議の進捗について
- ・デジタル化資料についての国立国会図書館との連携について
- ・大学設置基準改正への意見提出について
- ・日本図書館協会代議員選出選挙について
- ・経済産業省によるヒアリングについて

d 2021年度第1回常任幹事会

日 時：令和3年12月8日（水）11時～12時

開催方法：Zoom

議 事：

- ・第91回国公立大学図書館協力委員会の議事進行について

(ウ) 大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議

a 第22回大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議

日 時：令和3年7月5日（月）15時～17時

開催方法：オンライン

議 事：

[トピックレクチャー]

- ・研究データポリシー策定に至る検討体制（組織）について一名古屋大学の場  
合－（国立情報学研究所 学術基盤推進部次長 竹谷喜美江氏）

[報告・協議事項]

- ・図書館システム・ネットワーク運営協会（仮称）の設立について
- ・大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）の活動について
- ・これからの学術情報システム構築検討委員会の活動について
- ・オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）の活動について
- ・国立情報学研究所 学術コンテンツ事業について
- ・国公立大学図書館協力委員会の最近の動向について

b 第23回大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議

日 時：令和4年2月16日（水）15時～17時（予定）

開催方法：オンライン（予定）

議 事：

[報告・協議事項]（いずれも予定）

- ・大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）の活動について
- ・これからの学術情報システム構築検討委員会の活動について
- ・オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）の活動について
- ・国立情報学研究所の最近の動向について
- ・国公立大学図書館協力委員会の最近の動向について

(エ) 国立国会図書館関係

a 令和3年度国立国会図書館長と大学図書館長との懇談会

日 時：令和3年12月8日（水）16時～17時

開催方法：Zoom

議 事：

[国立国会図書館報告]

- ・国立国会図書館のデジタルシフト—資料デジタル化を中心に—  
(国立国会図書館 電子情報部長 大場利康氏)

[大学図書館報告]

- ・国立大学図書館のデジタル化への対応～国立大学図書館協会「ビジョン2025」の概要～  
(東京大学附属図書館 総務課長 久保田壮活氏)
- ・慶應義塾大学メディアセンターにおける資料のデジタル化  
(慶應義塾大学メディアセンター 所長 須田伸一氏)

(4) 大学図書館著作権検討委員会（都留文科大学、東京都立産業技術大学院大学）

<報告内容>

ア 構成

- 主査 斎藤 未夏（東京大学）
- 事務局員 谷口 瑞枝（東京大学）
- 委員 佐藤 康之（慶應義塾大学）
- 委員 佐藤 義則（東北学院大学）
- 委員 服部 光泰（早稲田大学）
- 委員 鈴木 修二（千葉大学）
- 委員 高木 晃子（千葉大学）
- 委員 芳村 幸多朗（東京都立産業技術大学院大学）
- 委員 松尾 陽子（都留文科大学）

イ 活動報告

※会議、打ち合わせ、傍聴は全てオンライン

(ア) 各協議会加盟館周知依頼

改正著作権法成立（2021年5月26日）を受け「改正著作権法のポイントと今後の対応について」を作成し、国公私協力委員会事務局に周知を依頼

(イ) 著作権の最新動向の調査

- ・委員の分担により文化審議会著作権分科会を傍聴し、メーリングリストでメモを共有  
第21期文化審議会著作権分科会：（第1回[61]）7月19日、（第2回[62]）12月22日  
著作権分科会 基本政策小委員会：8月5日、8月24日、8月31日、9月15日、10月6日、10月27日、11月15日、12月2日、2月9日  
著作権分科会 法制度小委員会：8月25日、12月8日、2月4日  
法制度小委員会 著作物等のライセンス契約に係る制度の在り方に関するワーキングチーム：10月25日

(ウ) 文化庁とのやりとり

2021年6月30日 著作権法改正に伴う意見交換

2021年8月13日 図書館資料送信サービスの運用に向けた権利団体・図書館団体との意見交換

2021年9月24日 要望書「改正著作権法の施行に伴う図書館資料公衆送信サービスに関する検討の進め方について（依頼）」を提出

2021年10月11日 図書館等公衆送信サービスに関する関係者協議会に向けた事前説明

2021年10月14日 「簡素で一元的な権利処理」の在り方に関するパブリックコメント提出

(エ) 一般社団法人学術著作権協会（学著協）との合意書更新（2022年3月予定）

2022年2月16日学著協事務局と懇談

(オ) JUSTICE との連携

協力員による電子書籍の国内代理店2社との懇談

ウ 会議開催記録

(ア) 大学図書館著作権検討委員会

（第1回）2021年6月10日 10:00-12:00

定期ミーティング：9月2日より、1～2週間毎

(イ) 著作権管理団体 日本複製権センターとの個別協議

2021年5月14日 公益社団法人日本複製権センター瀬尾代表理事

(ウ) 図書館団体との意見交換

2021年6月29日 全国公共図書館協議会と意見交換

2021年8月23日 著作権に関する図書館団体懇談会

参加団体：国公立大学図書館協力委員会、全国学校図書館協議会、全国公共図書館協議会、専門図書館協議会、国立国会図書館、日本看護図書館協会、日本病院ライブラリー協会、日本図書館協会、(陪席) 専門図書館協議会事務局、(陪席) 全国公共図書館協議会事務局

2021年10月7日

国立国会図書館と、改正著作権法第31条に関する意見交換会

全国公共図書館協議会と、改正著作権法第31条に関する意見交換会

令和3年度国立国会図書館 資料デジタル化及び利用に係る関係者協議会

2021年4月5日、7月1日、10月21日、11月19日

(エ) 権利者団体との意見交換

2021年8月13日 図書館資料送信サービスの運用に向けた意見交換（文化庁著作権課とりまとめ）

参加団体：日本書籍出版協会・日本雑誌協会、国立国会図書館、日本図書館協会、国公立大学図書館協力委員会、文部科学省総合教育政策局地域学習推進課、文部科学省研究振興局参事官（情報担当）学術基盤整備室

(オ) 図書館等公衆送信サービスに関する関係者協議会

a. 全体会議（第1回）2021年10月28日

構成団体：国立国会図書館、日本図書館協会、全国公共図書館協議会、国公立大学図書館協力委員会、専門図書館協議会、全国美術館会議、日本博物館協会、全国都道府県教育委員会連合会、全国市町村教育委員会連合会、新聞著作権管理協会、学術著作権協会、日本文藝家協会、日本脚本家連盟、日本シナリオ作家協会、日本写真著作権協会、日本美術著作権連合、日本美術家連盟、日本漫画家協会、日本音楽著作権協会、日本雑誌協会、日本書籍出版協会、自然科学書協会、日本医書出版協会、出版梓会、日本楽譜出版協会、日本電子

書籍出版社協会、日本児童図書出版協会、日本専門新聞協会

オブザーバー：全国知事会、指定都市教育委員会協議会、国立大学協会、公立大学協会、日本私立大学団体連合会、全国公立短期大学協会、日本私立短期大学協会、国立高等専門学校機構、全国公立高等専門学校協会、日本私立高等専門学校協会、日本複製権センター、出版者著作権管理機構、出版物貸与権管理センター

b. 4つの分科会に分かれて協議

ガイドライン分科会：2022年1月19日、2月21日

補償金分科会：2月9日、3月下旬（予定）

特定図書館分科会：2月10日、3月中旬（予定）

事務処理スキーム分科会：(R4年度開催予定)

(5) 国公立大学図書館協力委員会「大学図書館研究」編集委員会（名古屋市立大学、群馬県立県民健康科学大学）

ア 委員名（2021年11月1日現在）

主査	山崎 裕子	（お茶の水女子大学）
事務局	佐藤 千春	（東京大学）
事務局	斎藤 未夏	（東京大学）
委員	並木 映李香	（筑波大学）
	佐野 悠	（千葉大学）
	田中 亜希子	（新潟大学）
	糸井 悠	（群馬県立県民健康科学大学）
	井手 毅	（名古屋市立大学）
	浅尾 千夏子	（慶應技術大学）
	杉谷 美和	（明治大学）
	今村 昭一	（早稲田大学）
	吉場 千絵	（神奈川大学）
	村上 孝弘	（龍谷大学）
	伊藤 幸江	（関西学院大学）
出版チーム	上野 耕平	（電気通信大学）
	中村 智晴	（九州大学）

イ 活動状況

○第1回委員会

日時：2021年5月19日（水）15:00～16:55

会場：Zoomによるオンライン会議



内 容 :

1. 報告事項

- ・2020 年度大学図書館研究編集委員会会計報告について
- ・2020 年度刊行状況について
- ・「大学図書館研究」の編集発行体制について
- ・編集及び査読作業について

2. 協議事項

- ・2021 年度大学図書館研究編集委員会事業計画（案）について
- ・「大学図書館研究」の編集発行体制について
- ・査読シート（小特集用）改定について
- ・論文投稿に関する文書の英語版について
- ・第 118 号の編集作業の分担について
- ・第 119 号以降の企画について
- ・エラータ書式について
- ・国公立大学図書館協力委員会ウェブサイト内の記載内容について

○第2回委員会

日 時 : 2021 年 11 月 11 日 (木) 13:00~15:00

会 場 : Zoom によるオンライン会議

内 容 :

1. 報告事項

- ・国公立大学図書館協力委員会における活動報告について
- ・第 118 号の発行及び第 119・120 号の進捗状況について
- ・新館紹介について

2. 協議事項

- ・第 120 号の依頼先と分担について
- ・第 121 号以降の企画について
- ・PDF 校正手順の見直しについて
- ・J-STAGE 登録時のページづけについて
- ・2022 年度編集委員会の開催予定について

(6) 国公立大学図書館協力委員会シンポジウム企画・運営委員会（東京都立大学）

ア 構成（2021 年 4 月 1 日現在）

＜シンポジウム企画・運営委員会委員＞

主査 久保田壮活 東京大学附属図書館総務課長

武内八重子 千葉大学附属図書館利用支援企画課副課長

別府裕美子 東京都立大学学術情報基盤センター事務室図書・学術情報係主任  
笹渕 洋子 早稲田大学図書館総務課長  
河野江津子 慶應義塾大学理工学メディアセンター事務長

<日本図書館協会大学図書館部会個人会員委員>

逸村 裕 筑波大学図書館情報メディア系教授  
小山 憲司 中央大学文学部教授  
上村 順一 国立情報学研究所学術基盤推進部学術基盤課係長

## イ 活動状況

- ・2021年度シンポジウムについて、内容等について検討中。

日 時：調整中

開催方法：オンライン開催

テーマ：調整中

日本図書館協会大学図書館部会、大学図書館著作権委員会との共催により、大学図書館と学術出版、電子書籍等に関係した課題について、大学図書館のDXや著作権の動向も踏まえたものとして検討中。

## (7) 大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）（横浜市立大学、大阪府立大学）

ア 会員館（大学，大学共同利用機関，省庁大学校等の図書館）555館  
国立87館 公立79館 私立374館 その他15館（2022年1月28日現在）

## イ 運営体制

大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議

JUSTICE運営委員会 委員15名（会員館から選出）

交渉作業部会・調査作業部会・広報作業部会 委員33名 協力員6名  
（会員館から選出）

JUSTICE事務局 専任職員3名（会員館から出向）

## ウ 会議開催状況

### ①総会

- ・通常総会（予定）

日時：2022年3月4日午後（一橋講堂及びオンライン会議システム）

### ②運営委員会

- ・第1回 2021年6月8日（オンライン会議）
- ・第2回 2021年12月2日（NII及びオンライン会議）
- ・第3回（予定） 2022年2月8日（NII及びオンライン会議）

- ・第4回（予定） 2022年3月中旬から下旬

エ 活動内容

- ① 出版社交渉の実施
  - ② 契約状況調査（2021年度）  
実施期間 2021年5月10日～6月30日 調査対象 553館 回答館数 532館
  - ③ 版元提案説明会の開催  
日程 2021年9月8日、9日  
場所 オンライン開催  
参加機関・参加者数 234館 419名 参加版元 17社 47名
  - ④ OA2020 への対応検討
  - ⑤ COVID-19 への対応
  - ⑥ 電子書籍に関わる諸問題への対応検討
  - ⑦ 電子リソースのバックファイル・電子コレクション等の拡充
  - ⑧ 電子リソースの管理システムの共同利用
  - ⑨ 電子リソースの長期保存とアクセス保証
  - ⑩ 研修会・勉強会の開催
    - JUSTICE 電子資料契約実務研修会  
開催日 2021年7月2日  
会場 オンライン開催  
内容 第一部 「電子資料の有効利用のために：『電子資料契約実務必携』の活用」  
第二部 事例報告  
参加者 639名
  - ⑪ 会員向け広報誌『jusmine』の発行  
No. 41～No. 44（No. 44は2022.3月発行予定）
  - ⑫ 国際会議への派遣
    - ・15<sup>th</sup> Berlin Open Access Conference （オンライン開催）  
2021年9月28日～10月1日
    - ・国際図書館コンソーシアム連合 ICOLC2021 年秋季会合（欧州）（オンライン開催）  
2021年11月15日～17日
- ※ICOLC2022年春季会合は、現地開催のみとなったため不参加

詳細は 大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）ウェブサイト掲載の『2021年度 大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）活動報告』を参照のこと。  
(<https://contents.nii.ac.jp/justice/rules>)

(8) これからの学術情報システム構築検討委員会（公立ほこだて未来大学）

ア 委員

委員長	小山 憲司	(中央大学)
委員	相原 雪乃	(名古屋大学)
	斎藤 未夏	(東京大学)
	瓜生 照久	(九州大学)
	粟谷 禎子	(公立ほこだて未来大学)
	原 修	(立教大学)
	川崎 安子	(武庫川女子大学)
	竹澤 紀子	(早稲田大学)
	飯野 勝則	(佛教大学)
	福島 幸宏	(慶應義塾大学)
	塩崎 亮	(聖学院大学)
	大向 一輝	(東京大学)
	吉田 幸苗	(国立情報学研究所)
	片岡 真	(国立情報学研究所)

イ 委員会開催状況（オンライン開催）

第29回委員会	令和3年6月18日（金）
第30回委員会	令和3年9月6日（月）
第31回委員会	令和3年11月22日（月）
第32回委員会	令和4年1月26日（水）

ウ 活動内容

- (ア) 「これからの学術情報システムの在り方について（2019）」に記載されている持続可能な運用体制（共同体）を実現するため、また、今後 NACSIS-CAT/IL を発展的に維持して行くための組織体制について協議するとともに、大学図書館間の情報共有やコミュニケーション活性化のための方策を検討した。
- (イ) オープンフォーラムや図書館総合展において、これからの学術情報システムについて、今後の展望を紹介したほか意見交換を行った。

(9) オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）（高知工科大学）

ア 運営委員（◎委員長）

鵜澤 和往（北海道大学）

◎木下 聡（東京大学）

小野 亘（東京大学）

高橋 菜奈子（東京学芸大学）  
杉田 茂樹（京都大学）  
西岡 千文（京都大学）  
尾崎 文代（広島大学）  
結城 憲司（九州大学）  
古谷 陽（高知工科大学）  
折戸 晶子（明治大学）  
原 修（立教大学）  
川崎 安子（武庫川女子大学）  
林 正治（国立情報学研究所）  
吉田 幸苗（国立情報学研究所）

監事

電気通信大学

群馬県立女子大学

## イ 活動内容

オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR : Japan Consortium for Open Access Repository）は、リポジトリを通じた知の発信システムの構築を推進し、リポジトリコミュニティの強化と、我が国のオープンアクセス並びにオープンサイエンスに資することを目的として2016年7月に設立された組織。目的達成のため、次の戦略を掲げている。

### 【オープンアクセスリポジトリ戦略 2019～2021】

1. オープンサイエンスの推進に寄与するため、研究データの公開、流通に関する先導的な取り組みを行う。
2. オープンアクセスを推進する学術情報流通の基盤を整備し、コンテンツの流通、活用を促進する。
3. オープンアクセスリポジトリを支えるコミュニティとしての機能を強化する。
4. オープンアクセス、オープンサイエンスの推進に対応できる人材育成を行う。
5. 協会の活動基盤を強化し、JPCOAR のブランド力を高める。

## ウ JPCOAR 会員機関参加状況【2021年11月1日現在】

678 機関（うち公立大学 70 大学）

## エ 会議開催状況

第14回運営委員会 2021年6月4日(金)

1. 次期 JAIRO Cloud 移行について
2. 2020 年度決算案及び監査結果について
3. 2021 年度運営委員会・作業部会 (TF)・事務局の体制について
4. 2021 年度予算及び作業部会等の活動計画等について
5. JPCOAR 事務局への専任の事務局員派遣について
6. 2020 年度総会の結果について
7. メール審議結果及び会員参加状況について
8. 会費規程の検討について
9. 第23 回図書館総合展フォーラム出展について
10. 2021 年度海外派遣計画について
11. 2021 年度総会日程 (2022 年3 月予定) について
12. その他
  - SPARC Japan への運営委員及びセミナー企画メンバーの推薦について
  - 大学図書館短期研修講師の推薦について
  - 2021 年度 COAR 加盟に係る名義使用について

第15回運営委員会 2021年11月15日(月)

1. メール審議結果及び会員参加状況について
2. 2021 年度活動中間報告
3. 次期 JAIRO Cloud (WEK03) 動作検証進捗 (報告)
4. 2021 年度予算執行状況について
5. 会費規程について
  - 2022 年度基本会費について
  - JAIRO Cloud を共同リポジトリとして利用する場合の会費等に関する細則の改正について
  - JPCOAR 会費規程第6 条に係る申合せについて
  - 「共同リポジトリの発展にかかる要望について」への回答について
6. JPCOAR 活動方針(2022-2026 年)について
7. 2021 年度 JPCOAR 総会日程について
8. 2021 年度図書館総合展企画について
9. その他
  - COAR 総会 2021 について
  - Asia OA Meeting 2021 について
  - JPCOAR 専任事務局員の派遣について

(10) 日本図書館協会代議員総会（施設会員）（名古屋市立大学）

ア 2021年度第1回 日本図書館協会 代議員総会

日 時 : 2021年6月10日(木) 13:00~16:00

会 場 : 一橋大学一橋講堂中会議室

場 所 : 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター2F

議 事 : 議案

第1号議事 2021-2022,年度 理事・監事の選出について

第2号議事 2020年度公益社団法人日本図書館協会事業報告  
について

第3号議事 2020年度公益社団法人日本図書館協会決算について  
報 告 ① 定款第13条の代議員選出方法等の検討結果報告  
について

② 第107回全国図書館大会山梨大会について

(11) 日本図書館協会大学図書館部会（東京都立大学、横浜市立大学）

ア 構成（2021年8月1日現在）

部会長 池田 潤 筑波大学附属図書館長

<施設会員委員>

久保田壮活 東京大学附属図書館総務課長

成澤めぐみ 筑波大学学術情報部情報企画課長

河西 徹 横浜市立大学学術情報センター学術情報課長

白濱 博人 東京都立大学学術情報基盤センター事務室事務長

笹渕 洋子 早稲田大学図書館総務課長

関口 素子 慶應義塾大学メディアセンター本部総務担当課長

<個人会員委員>

逸村 裕 筑波大学図書館情報メディア系教授

上村 順一 国立情報学研究所学術基盤推進部学術基盤課係長  
(総括・連携基盤チーム)

小山 憲司 中央大学文学部教授

イ 活動状況

(ア) 会議

・2021年度第1回部会委員会（書面決議）

期 間 : 2021年5月19日(水) ~5月25日(火)

議 題 :

・2020年度大学図書館部会事業報告（案）について

- ・2021年度大学図書館部会事業計画について
  - ・2021年度大学図書館部会委員会委員（個人会員）候補者の推薦について
  - ・2021-2022年度一般理事B候補者の推薦について
  - ・大学図書館部会規程の改正について
  - ・2021年度大学図書館部会総会の開催について
- ・2021年度部会総会（書面決議）
- 期 間：2021年6月1日（火）～6月9日（水）
- 議 題：
- ・報告事項
    - ・2020年度大学図書館部会事業報告及び経費収支報告について
    - ・2021年度大学図書館部会事業計画及び予算調書について
  - ・協議事項
    - ・2021年度大学図書館部会委員会委員（個人会員）の選考について
    - ・2021-2022年度一般理事B候補者の推薦について
    - ・大学図書館部会規程の改正について
- ・2021年度第2回部会委員会（文書審議）
- 期 間：2021年11月10日（水）～11月26日（金）
- 議 題：大学図書館部会2022年度事業計画及び予算調書について

(イ) 事業

- ・第107回全国図書館大会山梨大会への協力支援
  - 日 時：2021年11月11日（木）～11月12日（金）
  - 開催方法：オンライン開催
  - テーマ：第2分科会 新型コロナウイルス感染拡大と大学図書館
- ・2021年度大学図書館シンポジウム（大学図書館研究集会）
  - 日 時：調整中
  - 開催方法：オンライン開催
  - テーマ：調整中
  - 運 営：国公立大学図書館協力委員会（シンポジウム企画・運営委員会）と共催
  - 備 考：今年度は図書館総合展のフォーラムとしては開催せず

(ウ) その他

- ・大学図書館部会長、理事の交代（2021年8月1日付）
  - 大学図書館部会長
    - 退任：須田 伸一（慶應義塾大学メディアセンター所長）
    - 新任：池田 潤（筑波大学附属図書館長）



理事

退任：松本 和子（慶應義塾大学メディアセンター本部事務長）

新任：熊淵 智行（筑波大学学術情報部長）

・日本図書館協会代議員選出選挙の実施について

2022-2025 年度公益社団法人日本図書館協会代議員選出選挙について、10 月 20 日（水）に同協会選挙管理委員会から公示があった。公示では、施設等会員選出代議員（選挙区第1区～第5区）の選挙について、各部長宛てに代議員候補推薦の依頼予定としており、大学図書館部会は選挙区第2区としてこれに対応する。

(12) Web サイト運用チーム（東京都立大学）

ア 構成（2021年8月1日現在）

主査 伊賀由紀子 大阪市立大学学術研究支援部図書情報担当課長

近藤真智子 東京大学附属図書館総務課企画渉外チーム

別府裕美子 東京都立大学学術情報基盤センター事務室図書・学術情報係  
主任

坂本 里栄 西南学院大学図書情報課課員

イ 活動状況

(ア) アカウントとパスワードの管理

以下のアカウントのパスワードを年1回変更している。

・編集用アカウント

①管理者権限 ②Web サイト運用チーム ③委員長館

④大学図書館著作権検討委員会 ⑤シンポジウム企画・運営委員会

⑥大学図書館研究編集委員会 ⑦加盟館限定ページ共有ファイル管理用

・加盟館限定ページ閲覧アカウント

(イ) メンテナンス

2021年9月29日（水）18:00-23:00

WordPress 関係のアップデートを実施した（5.7.2-ja -> 5.8.1-ja）。

(ウ) 新ページ追加

「資料集」の下層に「大学設置基準改正タスクフォース」のページを設け、文部科学省に提出した大学設置基準改正試案を掲載した。

(エ) サーバ更新

2017年12月から運用継続している Web サイト用サーバの老朽化に対応するため、新規サーバを契約して移行する。

【スケジュール】

2022年3月 新規サーバを契約し、Web サイト保守業者のスポット対応による移

行作業を実施する(使用サーバ契約期間・新規サーバ試用期間中)。  
末日までに作業を完了し、使用サーバの契約を終了する。

2022年4月 年間契約した新規サーバでのWebサイト稼働を開始する。

(オ) 主査の交代(2021年8月1日付)

退任：成澤めぐみ(筑波大学学術情報部情報企画課長)

新任：伊賀由紀子(大阪市立大学学術研究支援部図書情報担当課長)

公立の主査は、国公立大学図書館協力委員会の常任幹事館のうち、委員長館の持ち回りに入っていない館が担当する。

### 3 地区活動報告

#### (1) 北海道・東北地区（秋田公立美術大学）

○令和3年度公立大学協会図書館協議会北海道・東北地区館会議

日 時：令和3年9月10日（金）～9月17日（金）

場 所：書面会議

参加館数：17館

承合事項：

- ① リモートアクセスツールについて
- ② 学生協働による学修支援の取組みについて
- ③ 除籍資料の処理について
- ④ 電子教科書の導入検討について

#### (2) 関東・甲信越地区（東京都立産業技術大学院大学）

○令和3年度公立大学協会図書館協議会関東・甲信越地区協議会

日 時：令和3年9月9日（木）

開催方法：メール審議

1. 協議(確認)事項：

- ① 関東・甲信越地区の役員選出ローテーション表の確認について

2. 承合事項：

- ① 修士論文の取り扱いについて
- ② 雑誌の保存について
- ③ 図書館内情報検索端末の学外者利用について
- ④ 大学予算で書籍を購入する際の発注方法および発注者について
- ⑤ コロナ禍での図書館イベント実施状況について
- ⑥ 図書館運営に関係した学生の活動状況について
- ⑦ コロナ禍における閲覧席、グループ学習室などの運営管理について
- ⑧ 図書館内のパソコン・プリンターについて

#### (3) 東海・北陸地区（情報科学芸術大学院大学）

○令和3年度公立大学協会図書館協議会東海・北陸地区館会議

日 時：令和3年10月12日（火） 14時00分～15時00分

会 場：ZOOMによる遠隔会議

参加者数：13大学15名

欠席：4大学

1. 報告事項:

- ① 今年度の事業進捗について

2. 協議事項:

- ① 東海・北陸地区の役員ローテーションについて

3. 情報交換

(4) 近畿地区（京都府立医科大学）

○令和3年度公立大学協会図書館協議会 近畿地区協議会

日 時：令和3年10月26日（火）15時00分～16時15分

場 所：ZoomによるWeb会議

参加館数：12館

1. 協議事項：

- ① 近畿イニシアティブの方向性について
- ② 令和4年度近畿地区協議会事業計画（案）について

2. 報告事項、その他：

- ① 令和5年度公立大学協会図書館協議会会長等の役割分担について  
会長館：神戸市外国語大学  
総会開催館：神戸市看護大学、兵庫県立大学、福知山公立大学

(5) 中国・四国地区（新見公立大学）

○第27回公立大学協会図書館協議会中国四国地区協議会総会

日 時：令和3年4月15日（木）～4月22日（木）

開催方法：メール審議

1. 報告事項：

- ① 令和2年度事業報告及び令和2年度決算報告について
- ② 令和2年度監査報告について

2. 協議事項：

- ① 令和3年度会費について
- ② 令和3年度事業計画（案）及び令和3年度予算（案）について
- ③ 電子図書館サービスについて

○令和3年度公立大学協会図書館協議会中国四国地区協議会研修会

日 時：令和3年10月8日

開催方法：ZoomによるWeb開催

① 講演：13:30～15:30

講演内容：電子書籍・電子図書館 最近の動向とこれからの展望

講師：NPO法人 大学図書館支援機構（IAAL） 高野 真理子氏

② 情報交換会 16:00～17:00

各館の電子書籍導入状況について情報交換をおこなった。

(6) 九州地区（福岡女子大学）

○令和3年度第72回九州地区大学図書館協議会公立大学部会

日 時：令和3年4月12日（月）～4月23日（金）

開催方法：メール審議

当番大学：宮崎公立大学大分県立看護科学大学

参加館：16館

内 容：

1. 協議事項：なし

2. 承合事項：

① 参考図書（事典・白書・年鑑等）の除籍基準と保存期間について（長崎県立大学）

② 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う学外利用者の入館制限期間およびサービス状況について（大分県立看護科学大学）

③ 機関リポジトリへの学術論文の登録に関する図書館のサポートについて（沖縄県立看護大学）

3. 次期当番館選出

## 4 職員研修

### (1) 大学図書館職員長期研修について

- ① 主催：筑波大学
- ② 日時：令和3年7月5日（月）～7月16日（金）
- ③ 会場：オンライン形式（ZOOM）
- ④ 受講者：国立大学・大学共同利用機関 28名  
公立大学 2名  
私立大学 5名

### (2) 研修報告

#### ア 令和3年度大学図書館職員長期研修報告

大阪市立大学学術情報総合センター 中村 健

念願であった長期研修にようやく参加することができた。昨年（令和2年度）申し込んだがコロナ禍により中止、本年度は大学統合の業務が多忙なうえコロナ禍が続く中、2週間職場を離れて参加することの是非を悩んだが、全日オンライン形式で開催するとわかったので思い切って申し受講がかなった。オンライン開催については、私も含め「オンラインだから申し込みをした」という好意的な受け止めをした受講生が多かった印象だ。講義内容は、従来と同じ講義19コマ+ワークショップ+班別討議のプログラムと2週間の開催期間と同じであったが、この研修は講義を受講するだけでなく、グループによる討議がメインであるため、どのようにオンライン研修を行うのか開催前から、非常に興味をもって臨んだ。

本報告では、質問をした竹内比呂也「大学図書館職員の新たな役割」、コロナ禍が研究者にもたらした影響をとりあげた前田麦穂「研究者・学生と大学図書館—図書館休館対策プロジェクトからみえたこと—」に加え、オンライン講義の方法についても触れたい。

令和3年度 講義記録：

<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/pub/choken/2021/nittei.html>

#### 講義全体の概要

コロナ禍の状況を受け、多くの科目で“図書館サービスのDX（デジタルトランスフォーメーション）”“オープンサイエンス”を絡めながら講義が進んだ。コロナ禍により多くの図書館が閉館やサービスを縮小せざるを得なかった状況は、多くの図書館員にリアル同様の図書館サービスを展開する手段としてDXやオープンサイエンスを意識させた。多くの受講生から、講義の中に現状打開のヒントを見出そう、という強い意識を、PCの画

面越しからだが感じとることができた。

#### 大学図書館職員の新たな役割（竹内比呂也）

竹内講師が示した問題意識は「コロナ禍により「誰も来ない図書館」が現出し、大学図書館のリアルサービスの限界が突き付けられた」というもので、ポスト・コロナでは、デジタルを主、紙が従を前提とした学術情報流通基盤整備とその枠組みの中で大学図書館機能の再構築を行う必要があると述べた。続けて再構築に関わるさまざまな業務モデルについて語った。

私が印象に残ったのは、研究データ管理とデジタルアーカイブの部分だ。「研究データ管理」の語はよく聞くようになったが、竹内講師は、研究データが図書・論文管理とは異なる要素が多く、図書館が扱う先導的事例を作って業務モデルを考えていくことが大切だ、と述べた。私はこの講義を聞きながら、研究データ管理は図書館の業務モデルとしては構築途上にある、と感じた。

「デジタルアーカイブ」については、各図書館で運営が活発化しているが、各館が同じ資料をデジタル化して公開する必要はなく、ある館が公開したデータをリンクやデータを規則のもとみんなで共有し、各館は他館が所蔵していない資料を公開することでアーカイブを拡大していけばよい、と語った。私は、紙の資料の分担保存とは違う、デジタル資料の分担運用のイメージを得ることが出来た。

#### 研究者・学生と大学図書館—図書館休館対策プロジェクトからみえたこと—（前田麦穂）

前田講師は「図書館休館対策プロジェクト」の発起人である。同プロジェクトは社会科学系の若手研究者が中心となり、コロナ禍で生じた図書館休館やサービス縮小が、研究者に与えた影響をアンケート調査で探るとともに、各方面に緊急支援対策（デジコレ、電子ジャーナルの館外からの利用、安全的な段階的な措置）の要望書を出したことで知られる。

長期研修の趣旨としては、このプロジェクトを通して、ポスト・コロナの図書館の有り方を考えることだった。私が講義の中で深く考えさせられたのはアンケートの結果である。この休館・サービス縮小の影響を最も受けたのだが人文系の研究者だったが、それはこの分野のデジタル化が遅れているということ以上に、資（史）料の所蔵機関が閉館になったため、「一次資料の確認」という研究上のプロセスが遂行できなく出来なくなったことが大きい。これは投稿論文、博士論文・修士論文の執筆に必要な文献の収集ができない→論文の提出期限に間に合わない→研究者としてのキャリア形成に大きな困難をもたらす、という負のプロセスに直結し、由々しき事態を生み出した。

この結果に、私は、一般的にDXというと電子リソースをたくさん導入し資料をオンライン化すればよいと思いがちだが、各学問領域にあわせたきめ細かい目配りが必要である、と思った。例えば、Europeana や国立国会図書館デジタルコレクションのように信頼できるデジタルアーカイブが増え、研究資（史）料のエビデンス確認が容易になってきた

が、重要な資（史）料の現物確認というプロセスはなくなる。このプロセスとデジタルアーカイブの信頼性の担保というバランスはこれからも考えるべき課題である。

#### 事前課題・ワークショップ・班別討議・事後課題

この4プログラムは次のようなサイクルで回っている。事前課題では個人レベルで情報収集し、ワークショップでは事前課題の情報をもとにグループで企画をまとめる。班別討議では、ワークショップで学んだ手法を用いて、別グループで新たな企画をまとめる。事後課題では、班別討議のテーマを個人レベルで企画しおなす、というように、個人から開始した研修はグループを経て個人に戻ることで、受講生が研修前後の違いを体感できるようになっていた。

企画の立案も“実現可能な企画”を立てるという点がポイントで、そのために実際に予算額や人員を算出し、学内の折衝先もシミュレーションするなどプロジェクト・マネージャーの力を磨くプロセスや、各班の企画に対して研修を運営する筑波大学附属図書館の館長・管理職からコメントをいただくというプロセスが用意されていた。

ワークショップ・班別討議は、オンラインで行われた。受講生はPCとヘッドセットを用意し、Zoomのブレイクアウトセッション機能を使い、班に分かれて議論した。受講生は手元のPC画面でGoogleドライブの企画書・プレゼン資料を共有しながら議論と資料作成を行ったが、この作業はリアル研修の“ホワイトボードや大判の模造紙に書く”“特定のPCを囲んでPPTを作成する”に対応するものだ。ここは、リアルよりオンラインのほうが、はるかに進めやすく、意思疎通に違和感を覚えなかった。

こう書くといいことばかりのようだが、毎日、終了後に目や首に大きな疲労が残ったこと、音声面でトラブルがあった場合対応に手間取ることがウィークポイントと感じた。

#### ・謝辞

長期間にわたり運営を担っていただいた筑波大学附属図書館の皆様に御礼申し上げます。また、推薦により参加の機会を与えてくださった公立大学協会図書館協議会に深謝します。最後に、大学統合という難事業を遂行中にもかかわらず、半月にわたり快く送り出していただいたうえに事後課題にも積極的に協力いただいた職場の上司・同僚・部下に、あらためて感謝の意を申し上げます。一日も早いコロナ禍の収束を祈念して。



イ 令和3年度大学図書館職員長期研修報告

岡山県立大学附属図書館 田中智子

令和3年7月5日から約2週間に渡って開催された大学図書館職員長期研修に参加した。本年度はZOOMによるオンライン開催となり、受講者の方々と直接会うことはかなわなかったが、画面を通して顔を見ながらの研修であったため、聴講や演習で一体感を感じることが出来た。

研修は図書館マネジメント総論7科目・学術情報流通等各論12科目の講義と、演習・班別討議16コマで行われた。以下、概要と一部講義の紹介及び所感に分けて報告する。

なお、講義資料は以下のURLから参照されたい。

令和3年度 講義記録

<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/pub/choken/2021/nittei.html>

図書館マネジメント総論

大学の現状や課題に関する話題とともに、これから求められる図書館職員像について様々な立場の講師から学んだ。ほとんどの講義で共通してDX（デジタルトランスフォーメーション）やオープンサイエンスの動向について触れられており、避けて通れない課題であると改めて認識した。

「大学図書館職員の新たな役割」での話題は、コロナ禍での誰も来ない図書館では電子資料がむしろメインとなり学術情報のデジタル化は確実に進むこと、DXはチャンスではなく必然であり当然やるべきであること、オープンサイエンス時代となり従来の狭い視野の支援ではなく大学全体の学習支援の中から図書館に出来ることを探すべきなど、気づきの多い講義であった。特に、現代の図書館は資料提供の窓口ではなく数多ある提供者の一つに過ぎないという話が印象に残った。今まで図書館は資料・情報と利用者を繋ぐ存在と思ってやってきたが、図書館職員の役割についてもっと根本的に考え方を変えなければいけないと感じた。

学術情報流通等各論

NIIの取り組み、著作権、若手研究者の実際、学習・研究支援、アクティブラーニングの手法、図書館経営、学生の行動、障害者支援、IIIFによるデジタルアーカイブ整備など、多岐にわたる内容を動向も交えながらじっくり聞くことができた。

DXが話題となる中ではあるが、印象に残った講義は「紙資料の劣化と保存」であった。紙について、2020年に初めて板紙（商品パッケージなど）が情報用紙（新聞・本など印刷用）の生産量を上回ったという話題から、成分や構造など根本的な知識や生産工程まで具体的に知ることが出来たが、業務で毎日扱っている「紙」のことを実は全く知らなかったと痛感した。さらに、劣化の仕組みや保存技術についても解説があり、中でも、スマトラ島沖地震の津波被害で海水に浸かった公文書にカビが繁殖しなかったこと

から着想を得たという、紙を塩水に浸す新しい保存方法の研究紹介では、研究や実験の過程も垣間見えとても興味深かった。改めて自館の資料保存について考える必要があると感じた。

#### 演習・班別討議

5人ずつの班に分かれ、ZOOMのブレイクアウトルームとSlackを使ったグループワークが行われた。今回、ZOOM他オンラインツールの使い方も副産物的に学ぶことが出来た。

一週目のグループワークは、図書館の新たな取り組みについて班別に企画をまとめ、スライドを作成し発表という流れだった。話し合いの上にスライド作成までオンラインで出来るのか不安だったが、班で議論し良いものが出来たと思う。コロナ禍もあったためか、バーチャル図書館などリアルとデジタルの共存アイデアを発表した班が多かった。

二週目の班別討議では一週目とは異なるメンバーで、より実現性のある企画を考えることとなった。話し合いでは、自分の考えだけでは出てこない発想や他館の事例を聞いて刺激になった。主な企画として研究データ管理や職員間の連携などの発表があった。

#### 所感

講義の中で特に印象に残ったのは「カルピスの原液をそのまま飲ませるのではなく飲みやすく薄めて出す必要がある」という言葉である。図書館の案内はあれこれ詰め込み過ぎで、学生や教員は図書館にそもそも関心がないのだから必要なことだけを的確に案内すべきとの趣旨であった。デジタル化や研究支援など図書館として新たな課題が増える中で、改めて利用者視点に立ったサービスを行うということを肝に銘じたい。初のオンライン開催となった長期研修ではあったが、運営の筑波大学様も準備万端でサポートしてくださりとても有意義な研修となった。

最後に、貴重な機会を与えてくださった公立大学協会図書館協議会に深く感謝申し上げますとともに、研修参加を快く承諾いただいた上司及び同僚に感謝いたします。

### (3) 大学図書館短期研修について

- ① 主催：東京大学附属図書館、京都大学附属図書館、国立情報学研究所
- ② 日時：令和3年10月26日（火）～10月29日（金）
- ③ 会場：オンライン形式

※オンライン形式での開催により補助金が発生しないため、希望する校による直接申込とした。

## 5 出版

(1) 公立大学協会図書館協議会『会報 第53号』（令和3年度）

編 集 公立大学熊本県立大学学術情報メディアセンター図書館

発 行 公立大学協会図書館協議会

発行年月 令和4年3月

(2) 『大学図書館研究』

編 集 国公立大学図書館協力委員会「大学図書館研究」編集委員会

発 行 国公立大学図書館協力委員会大学図書館研究編集委員会（OAJ）

平成29年12月（第107号）よりオープンアクセス誌、冊子未発行

発行年月 令和3年 8月 （第118号）

令和3年 11月 （第119号）

令和4年 3月 （第120号）

U R L <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jcul/-char/ja>